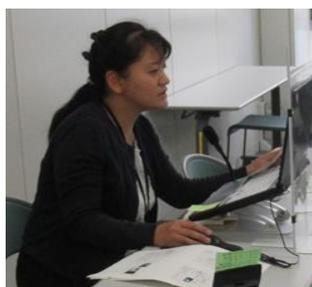


令和3年度 第1回 就労支援事業所研修会 事業報告

～支援者に求められるもの～

令和3年 6月15日(火) 14:00～16:30

コロナウィルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令されたことで急遽、オンラインに変更し実施しました。急な変更にも関わらず、21事業所の方に参加していただきました。



■ 講演① 『当事者の立場から』

凸版印刷株式会社 西日本事業部 T氏
福岡市障がい者就労支援センター ジョブコーチ 北村里美

T氏に養護学校高等部卒業後の歩みを就労生活を中心に振り返ってもらいました。

周囲から施設での就労を勧められる中、一般企業への就職を強く希望し、低賃金ではあるものの働き始めました。少しずつ職業経験を積み重ねた後、大きな手術を行い一度は一般企業での就職を諦めたことがあったそうです。その後、リハビリ仲間との出会いをきっかけに再就職を目指すことを決意し、職業訓練を受けました。年齢や障がいが高いハードルとはなりましたが、「就職したい!」というT氏の熱い想いが実り今の会社へ就職が決まり、現在は無期雇用となり充実した職業生活を送られています。講演の最後に支援者に対して「その人はここができないと決めつけなくて欲しい」という話がありました。支援者が本人の想いに寄り添い一緒に考えていくことが大切であるということ、あらためてT氏から学んだ講演でした。

■ 講演② 『就労支援者の視点』

福岡市障がい者就労支援センター
就労支援コーディネーター 高野徳子

就労支援のプロセスと支援内容、就労準備の必要性、アセスメントの考え方やポイントを伝えました。特にアセスメントには自身の気づきを促し、自己理解が進むといった側面もあります。本人の想いを尊重しつつ、「就労に近づけること、繋げていくこと」が就労支援の大事なポイントとなることをお伝えしました。

■ グループワーク

参加者4～5名ずつ4グループに分かれ、意見交換を行いました。参加者からは「日頃他の事業所職員と話すことがないため新鮮な気持ちで聞くことができた」「就労移行支援、A型、B型など様々な支援者が参加しており、それぞれの支援者の考え方や当事者との関わり方を知ることができ、とても勉強になった」「同じ支援者として悩んでいたことを他の視点から意見をもらえて参考になった」等、グループワークでは得るものが沢山あったという意見がありました。

どのグループも活発に意見を出し、時間が短く感じるほど充実した内容の意見交換となりました。令和3年度は、『企業に繋げる力、繋がる力』をテーマに今後も研修会を企画しています。日々の支援の一助にいただければ幸いです。次回もどうぞよろしくお願いいたします。

研修担当一同

令和3年度 第2回 就労支援事業所研修会 事業報告

「企業に繋げる力、繋がる力」

令和3年 8月24日（火） 13:30～17:00

企業より4社、26ヶ所の支援事業所の方に参加いただきました。オンライン上であっても繋がりを感じつつ、様々な意見が交わされました。

企業や事業所、外部への訪問等が難しい時期に開催しました。企業の生の声が、明日からの支援のヒントに繋がった方もいたのではないのでしょうか。



◆講義『企業で働くとは』

福岡市障がい者就労支援センター

就労支援相談員 高坂 修

講義では、「企業で働くとは」をテーマに、障がい者雇用を取り巻く現状、企業が求める人材、福岡市での雇用状況の変化などについて講義を行いました。中でも、就労支援をするうえで必要とされる企業と障がい当事者に関する知識や情報収集の重要性等について話をしています。

【参加4企業】

- ・佐川グローバルロジスティクス株式会社
(倉庫業務)
- ・学校法人博多学園
(事務補助業務、施設清掃)
- ・花椿ファクトリー株式会社
(オフィスサービス業務)
- ・株式会社明治
(事務補助)

【企業紹介】

各企業から、事業概要や雇用状況についての説明を行っていただきました。



～アンケートより～

企業の求める人材像を知ったことで、今後の支援における重要な指針を得られた。あくまで利用者と企業の架け橋という立場を踏まえて、中立であるように心がけたい。



～アンケートより～

企業の方の話をじかに聞くことで、一般就労での採用に必要な条件を具体的に知ることができた。改めて「生活習慣・マナー・自身の症状の把握とコントロール」などの基本的な要素の重要性を再確認できました。

【意見交換会】

参加者が4グループに分かれ、4社中3社の企業とオンライン上で意見交換会を行いました。花椿ファクトリー株式会社は、東京本社からの参加でした。

雇用継続での取り組み、求める人材、雇用における実際のエピソードなど、企業の方の生の声を聞くことができました。少人数で緊張気味な参加者も徐々にリラックスした意見交換の場になりました。

ご参加いただいた企業、事業所の皆様、ご協力ありがとうございました。次回の研修会は、詳細が決まり次第改めてご案内いたします。次回も是非、皆様のご参加をお待ちしております。

令和3年度 第3回 就労支援事業所研修会 事業報告

『企業に繋がる力、繋げる力』

～企業見学・意見交換会～

令和3年 12月8日（水） 14:00～16:30

今回は、初めてのオンラインによる企業見学を実施しました。24事業所の方が参加し、株式会社九州日立システムズ 経営企画本部総務部部長 河野氏に社内案内と講演をしていただきました。

<p>支援者の皆様へのお願い</p> <p>HITACHI Inspire the Next</p> <ul style="list-style-type: none">● 指導される際には、障がいの特性、性格 指導また、対応の方法、ポイント etc 詳細に公開してほしい● 配慮事項(通院・環境、過去の情報 etc)● 障がい内容を本人が開示するメリット、デメリット 動機付け 開示先: 職場/同僚/関係部署● 入職後の支援● 家族との面談 etc● 感謝の気持ちを持つ指導(相互に!)  <p>講師資料より抜粋</p>	<h3>■講演・企業見学</h3> <p>テーマ「障がい者雇用の取り組み」 株式会社九州日立システムズ 経営企画本部総務部部長 河野 宏子氏</p> <p>講師からは、障がい者雇用のきっかけとなった視覚障がい者との出会いや定着に向けた職場環境作りの工夫、マニュアル作成等就労支援に活かせるヒントに溢れた話がありました。特に高次脳機能障がいの方に実践している記憶を補うためのノート活用や左のスライドにある「支援者の皆様へのお願い」は、私たちの支援を振り返るうえで大変参考となりました。</p> <p>続く企業見学では、社内の様子や働いている方のインタビュー等動画で紹介があり現場の雰囲気伝わってきました。参加者からは、「支援者として利用者の配慮事項や特性理解を深めていく重要性を改めて感じた」「障がいの有無に関係なく全従業員が生きがいをもって働くという方針には目が覚める思いでした」という意見がありました。</p>
 	

■講義

テーマ「雇用における合理的配慮について」 就労支援コーディネーター：小野 英知
職場での合理的配慮について具体例を交えて説明をしました。参加者からは、「合理的配慮について、利用者とのすり合わせや企業への過重な負担について改めて考える機会となった」等の感想がありました。

■意見交換

参加者24名が4グループに分かれ、障がい者雇用に関することや各事業所で取り組んでいる合理的配慮等について意見交換を行いました。講師から直接障がい者雇用の現状や取り組みが聞けたこと、他の事業所の意見が聞けることは大変貴重な機会になったとの感想が参加者からありました。今後も支援の一助となるよう意見交換の場を設けた企画をしてみたいです。

次回は、令和4年2月15日（火）を予定しております。詳細は改めてご案内いたしますが、是非、皆様のご参加をお待ちしております。

研修担当一同

令和3年度 第4回 就労支援事業所研修会 事業報告

～企業に繋がる力、繋げる力～

『体験実習を活用した連携支援』の発表、意見交換会

日時:令和4年2月15日(火) 14:00～16:25

Zoomによるオンライン開催

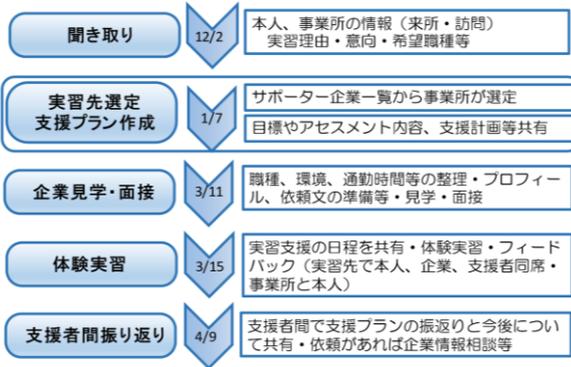
参加者:就労支援事業所の職員

30事業所34名

※連携支援(Aさんの場合)

◆申し込み後の流れ◆

※発表資料より抜粋



サポーター企業って?



当センターには、110社程の企業が「サポーター企業」として登録されています。地元の様々な企業や団体の皆様に、障がいのある方を実習生として、短期間「働くこと」を体験させて頂いています。

■意見交換

現在事業所で困っている・悩んでいるケースについて、「関係機関と連携することで解決の糸口が見つかるのではないか」との意見が出ました。またA型事業所間での悩みが共通していたり、「〇〇のような取り組みをして、障がいのある方の気付きや自己理解を深めている」といった、互いの取り組みを参考にしあう姿も見られ、有意義な意見交換ができました。

最後に、連携支援では“関係機関それぞれの強みを活かし、複数の視点で関わること”の重要性を再確認しました。そのことで“決めつけず・あきらめない支援”に繋がっていくということを共有しました。

■発表「体験実習を活用した連携支援」

特定非営利法人アベル

職業指導員

岩崎 和明氏

福岡市障がい者就労支援センター ジョブコーチ 出口 珠美

センターと事業所で連携して支援を行ったAさん(23歳)、Bさん(20歳)2名の「職場体験実習」について、申込後の流れ(左図参照)や実習したことで起こった変化について発表しました。

就労経験がなく、自閉症で自分の考えを発信することが苦手なAさんでしたが、実習後に「こんな自分にも合う所があったら働けるんだ」と、支援者に伝える事ができました。実習後はセンター、アベル間で支援を振り返り、今後の方向性について検討しました。

Aさんの場合、職場から「仕事の質が良く、真面目さや丁寧さが感じられ、集中力もあった」、「伸びしろが感じられた」との評価を受け、気持ちが前向きに動き、その後の就職活動への加速にも繋がりました。

参加者からは、「実習までの流れや留意点、実習後の変化と具体的な事例でイメージがしやすく参考になった」「事業所の利用者にあてはめながら話を聞くことができた」「就労準備性は大切だが、見極めをして、最後は信じて実習に出してみることも大切という言葉が残った」等の意見が寄せられました。

次年度も、就労支援事業所研修会を4回予定しています。

詳細は改めてご案内いたします。ご参加の程よろしくお願いたします。